

『藤沢市モビリティ・マネジメント教育

(交通環境学習)』の導入について

- 1.モビリティ・マネジメント教育導入の背景
- 2.MM教育の検討経過
- 3.『藤沢市MM教育』の概要
- 4.今後の進め方

1. モビリティ・マネジメント教育導入の背景

本市では人口減少・少子高齢化など社会状況が急速に変化していく中、身近な生活交通に対するニーズの多様化が進み、地球環境問題からも自転車や公共交通を中心とした交通体系を構築・利用推進していくことが重要な課題となっていました。

そこで、「藤沢市交通マスタープラン」では、自動車から環境負荷の小さな交通への利用転換を促すために学校、市民、企業に向けたモビリティ・マネジメント（以下「MM」）の推進を掲げています。

それらの中でも、特に子ども達を対象とした学校における MM は、大人の交通行動の転換を期待するよりもはるかに効果的です。このことから、市民や企業に向けた MM に先立ち、環境問題を学習し始める小学生を対象とした MM 教育の検討を始めました。

<MM 教育のイメージ>

MM 教育実施前：

移動手段といえば



自動車が基本



MM 教育実施後：

移動手段といえば



状況に応じて選択できる



参 考

モビリティ・マネジメント教育とは

私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動をとれるような人間を育てることを目指した教育活動です。

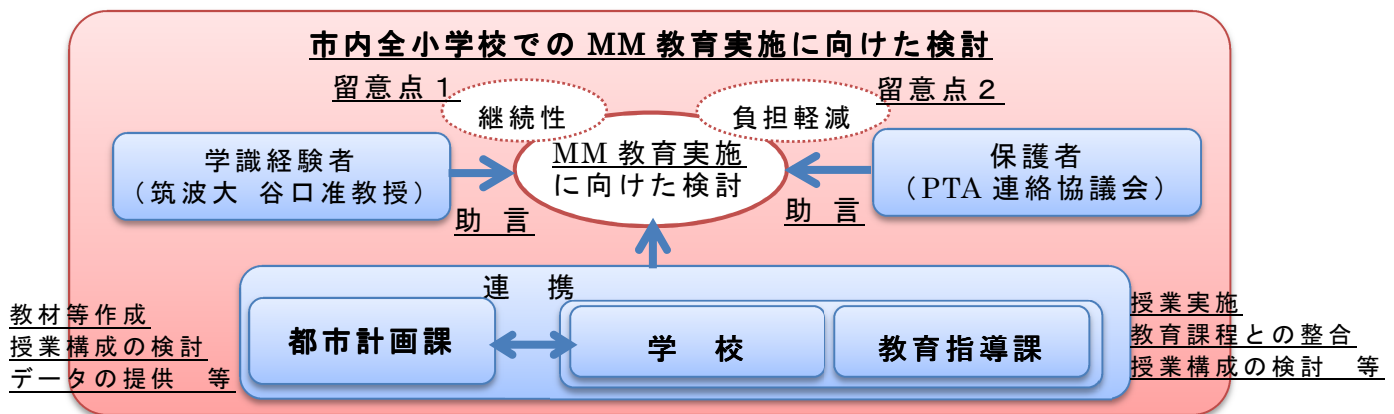
2. MM教育の検討経過

(1) 藤沢市 MM 教育推進事業

平成 26 年度から平成 29 年度までの 4 年間で市内全小学校を対象とする MM 教育の確立を目指し、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団（略称：エコモ財団）の支援の下、本市における MM 教育の検討を実施しました。

(2) 検討体制 (MM 教育検討会)

MM 教育の検討にあたり、平成 26 年 10 月にモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）検討会を設置しました。検討会では、モデル校で実施した MM 教育検討授業を踏まえ、本市にふさわしい MM 教育の進め方や教材等の検討を行いました。



構成委員	学識経験者（筑波大システム情報工学研究科准教授）、PTA 連絡協議会委員、小学校長会副会長、小学校教育研究会社会科部顧問、モデル校校長、教育指導課長、都市計画課長
事務局	エコモ財団、市教育指導課、市都市計画課

(3) モデル校等による MM 教育検討

校長会から選出されたモデル校等で MM 教育検討授業を行いました。

年度	モデル校等
平成 26 年度	中里小
平成 27 年度	駒寄小、高谷小、滝の沢小
平成 28 年度	
平成 29 年度	石川小、明治小

(4) 検討会の開催状況

検討会	開催日	内 容
第 1 回	H27.1.15	議題 1 藤沢市における MM 教育の進め方について 議題 2 中里小学校での取組み状況について 議題 3 中里小学校での MM 教育実施教材について
第 2 回	H27.7.16	議題 1 中里小学校における取組みについて（報告） 議題 2 平成 27 年度 藤沢市における MM 教育の進め方について 議題 3 交通事業者の検討会への参加について
第 3 回	H28.2.26	議題 1 モデル校における MM 教育の取組みについて 議題 2 今後の藤沢市における MM 教育の進め方について 議題 3 藤沢市 MM 教育における交通事業者との連携について
第 4 回	H28.8.29	議題 1 モデル校における MM 教育の取組みについて（報告） 議題 2 今年度の藤沢市における MM 教育の進め方について
第 5 回	H29.3.28	議題 1 モデル校における MM 教育の取組みについて（報告） 議題 2 藤沢市モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）手引書（素案）について
第 6 回	H29.8.17	議題 小学校における『藤沢市モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）』の実施手引書（案）について 報告 1 モデル校における MM 教育の取組みについて 報告 2 ふじさわ交通すごろくについて
第 7 回	H30.1.18	報告 モデル校における MM 教育の取組みについて 議題 小学校における『藤沢市モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）』の実施手引書（案）について
第 8 回	H30.3.28	報告 1 小学校における『藤沢市モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）』の実施手引書（案）について 報告 2 『藤沢市モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）』の導入について

(5) MM 教育検討内容の小学校への周知

報告相手	報告内容	実施時期
校長会 月 1 回開催	MM 教育検討についての説明 MM 教育導入の説明	H26.7,H27.9,H28.2,H28.5,H29.2 H29.12,H30.3
人権・環境・平和 担当者会 年 2 回開催(1 月,5 月)	MM 教育検討についての説明 MM 教育導入の説明	H26.5,H28.5,H29.5 H30.1
小学校教育研究会 (社会科部)	MM 教育導入の説明 (主な内容は「ふじさわ交通すごろく」)	H30.2

3.『藤沢市MM教育』の概要

本市では、公共交通を利用できる環境が充実しているため、公共交通を利用することを中心として段階的に学習理解を進めていく『藤沢市MM教育』を確立しました。

(1) 目的

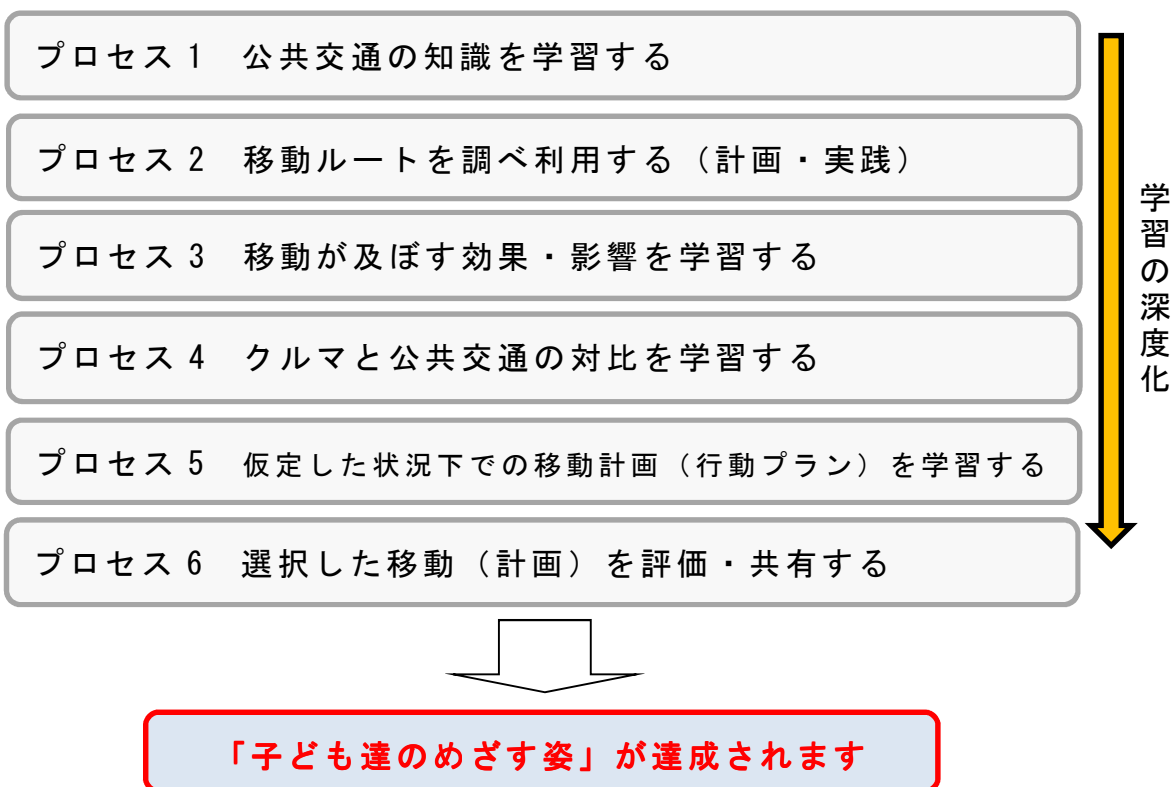
本市 MM 教育では、次に掲げる「子ども達のめざす姿」の実現を目的としています。

～子ども達のめざす姿～

- ・ TPO にあわせて、移動手段を考え、公共交通、クルマ、自転車、徒歩等を「かしこく」使うことができる。
- ・ 地球環境問題などの社会的な影響や健康などに配慮し、自発的に移動手段を選択して行動をすることができる。

(2) 進め方

本市 MM 教育では、次の6つのプロセスに沿った学習を進めていくことで学習の深度化が進み、全てのプロセスを経ると目的が達成できるようになっています。



(3) 特徴

本市 MM 教育の特徴は次のとおりです。

特徴 1：知識と実践の構成による MM 教育の展開

交通のことを知って、

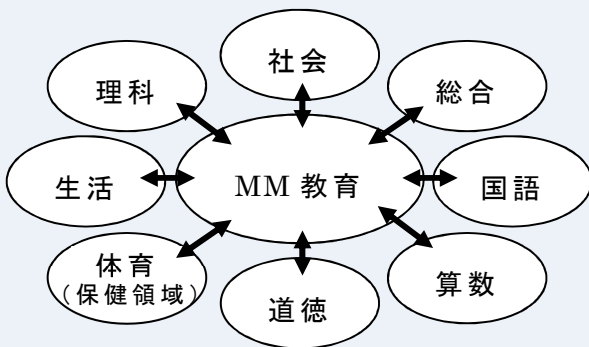


利用して理解を深める



特徴 2：教育課程と連携した MM 教育

様々な教育課程と連携が可能のため、授業カリキュラムを大幅に変更する必要はありません。



(例)

公共交通の学習をする → 【社会】
 旅行に行くなら「公共交通」か「クルマ」かを題材としたディベート → 【国語】
 歩くことと健康の関係を知る → 【体育（保健領域）】
 環境にやさしい移動方法を考える → 【理科】
 校外学習の行き方を学習する → 【総合的な学習の時間】

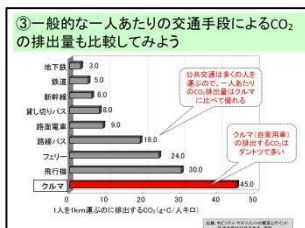
特徴 3：児童の公共交通の利用状況を踏まえた MM 教育

→ 地域特性等から児童の公共交通の利用状況を考慮した授業です。

< 授業の実施例 >

公共交通を利用する機会が多い場合…

→ 公共交通利用の実践、それによる手段間での運賃、CO₂の比較をメインとする。



鎌倉への交通手段(クルマの場合)
 中里小学校→鎌倉駅(平日(午前10時頃出発))

方法	かかる時間	かかる費用	CO ₂ 排出量
クルマ(平日)	120分	1,756円(往復)	10,154g(ガソリン1000cc)

公共交通を利用する機会が少ない場合…

→ 公共交通の使い方の知識習得、公共交通利用の実践をメインとする。



(4) 実施例

本市 MM 教育の代表的な取り組み事例は次のとおりです。

①校外学習と連携をした取り組み

【授業概要】

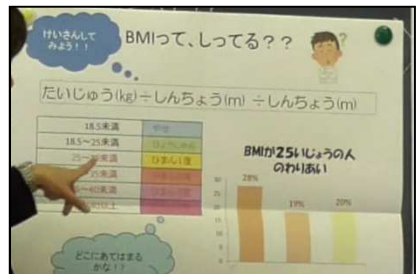
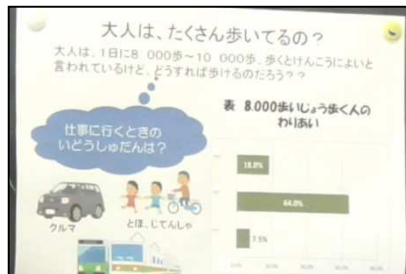
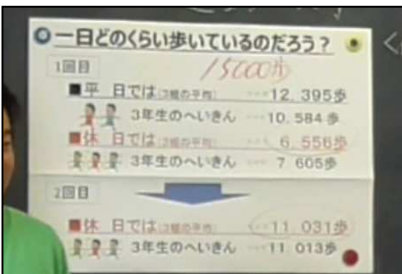
- ・藤沢市の状況や公共交通の状況、公共交通の利用方法について学習した上で、校外学習の機会を捉えて実際に公共交通を利用します。
- ・校外学習の後には、公共交通を使ってみてどうだったかを振り返ります。



②歩くことと健康の関係を知る取り組み

【授業概要】

- ・万歩計を使用し、児童が日常の生活でどのくらい歩いているかを学習します。
- ・歩数と健康との関係を学習し、健康のためにどのくらい歩く必要があるか、公共交通を使うとどのくらい歩くのか、を学習します。



③環境にやさしい移動方法を考える

【授業概要】

- ・公共交通やクルマを使うと、どのくらいの時間やお金がかかるのか、また二酸化炭素をどのくらい出すのを知り、時と場合に応じて、どのような移動手段がよいのか、環境にやさしい移動手段はなにか、を学習します。

活動	徒歩	自転車	バス	電車	クルマ
買い物	15分	10分	10分	10分	10分
習いごと(スポーツ)	15分	10分	10分	10分	10分
習いごと(音楽)	15分	10分	10分	10分	10分
病院(送迎)	15分	10分	10分	10分	10分
仕事	15分	10分	10分	10分	10分



(5) 授業教材

これまでに作成した授業教材については、全データを小学校でアクセスできるパソコン内から引用し、活用できるようになっています。

● 乗りかたガイドブック

● 乗りかたパワーポイント

● ふじさわ交通すごろく

● 行動きろくカード

1 家から学校まで歩く時間は？ 家から学校まで () 分

2 どこに、何の目的で、どのような方法で、でかけましたか？

自分の家

学校

行き先 () でかける目的 ()

↓ ・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他

行き先 () でかける目的 ()

↓ ・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他

行き先 () でかける目的 ()

↓ ・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他

行き先 () でかける目的 ()

↓ ・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他

行き先 () でかける目的 ()

↓ ・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他

3 一日に何歩歩きましたか？ 一日合計 () 歩

● ふじさわ公共交通まっぷ

(6) 実施手引書

『藤沢市 MM 教育』の内容を実施手引書としてまとめ、市内全小学校 35 校に対して各 4 部配布しています。

第 1 編 理論編 実施理念と進め方

第 2 編 実践編 実施事例集 (6 校、10 学年分を掲載)

第 3 編 資料編 活用教材集

(7) 推進に関する課題と対策

本市 MM 教育の市内全小学校での推進にあたり、考えられる課題とその対策です。対策については、その実現に向けて、現在検討を行っております。

課 題①

MM 教育に関する周知は、各小学校長が集まる「校長会」や各小学校からの担当者が集まる「人権・環境・平和担当者会」での説明を行ってきたが、それ以外の先生の認知度が不明である。

対 策①

ひとり一人の先生に対し、周知用リーフレットを配布する。

課 題②

MM 教育の教材はカラー版の資料が多いが、小学校ではカラー印刷ができないために、MM 教育の実施を敬遠されてしまうという懸念がある。小学校側からは、カラー版教材をあらかじめ配布して欲しいという声もある。

対 策②

使用頻度が高いことが想定される教材は、各小学校にあらかじめカラー版の資料を配布する。

4. 今後の進め方

(1) 役割分担

MM 教育を継続していくためには、①～④が重要です。

- ① 先生が MM 教育を行う、しっかりとした位置付けがある。
- ② 授業を行った先生の意見を反映し、進め方や教材等の改善を図る。
- ③ 進め方や教材は適宜更新を行う。
- ④ 先生が MM 教育に関する最新の情報を得る機会がある。

これらのことを踏まえ、本格実施時の役割分担を次のとおりとしています。

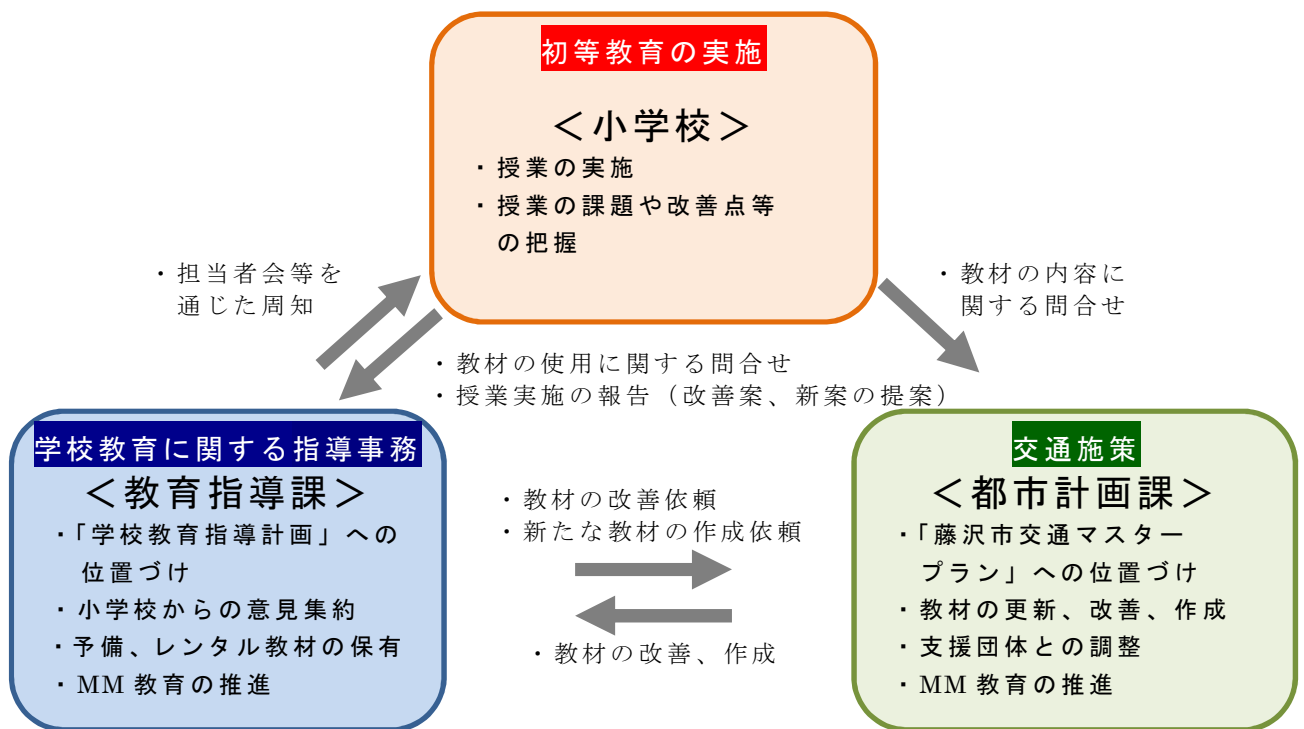


図 MM 教育の役割分担

(2) 進行管理

本教育を継続するために、各主体が役割分担を明確に認識し、P D C Aサイクルによる進行管理に取り組みます。

なお、3年経過時にはMM教育実施校からの報告を踏まえ、総合的な見直しを検討します。

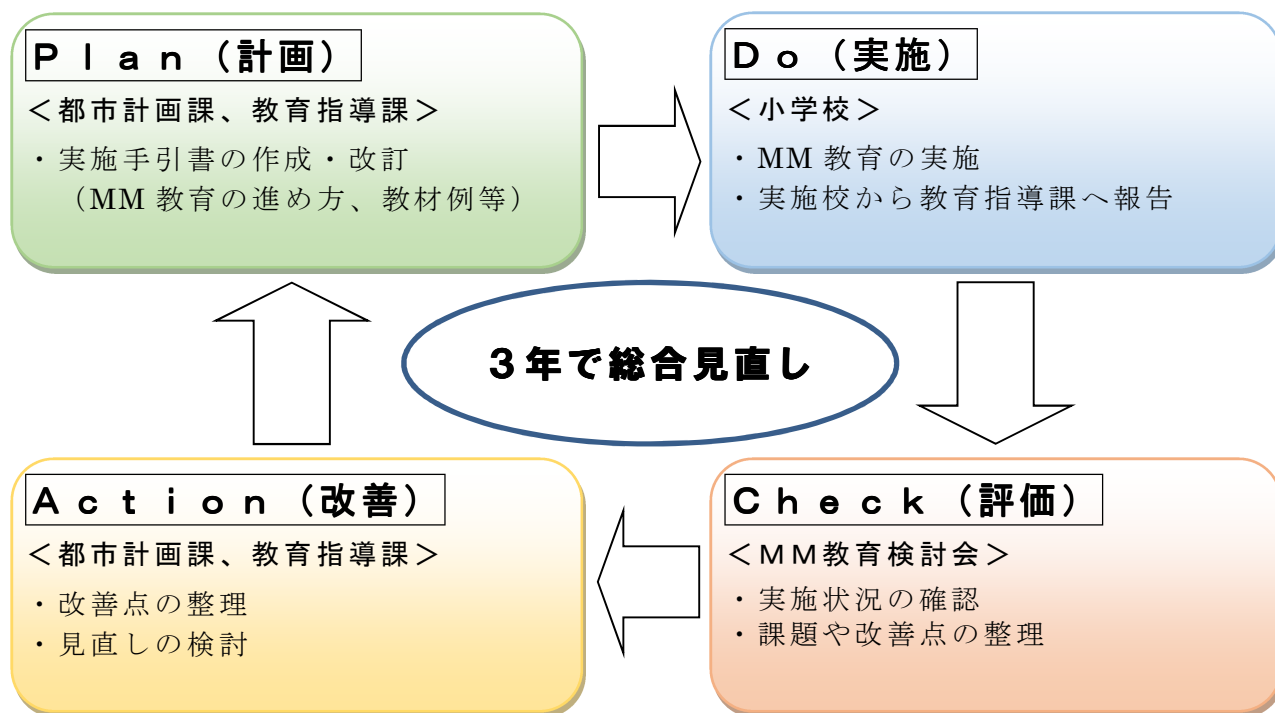


図 MM教育の進行管理